

# September

》 Köln International School of Design

今月は各種登録、手続き、ガイダンス等で慌ただしかったです。  
大学の手続きのため保険の調査局に行ったり、住民登録に行ったりしていました。  
来月から授業が本格的に始まります。

□ 家の窓からの風景

## 01 家について

もしかしたら寮に入れるかもとの思いで連絡を待っていたら、ケルンに到着するまでに家を決められなかった  
ので、8/27にドイツに到着してから9/15まで家探しをしていました。(同時に観光や諸手続き、IELTS受  
験などしていました。) KISDの家交面向けのフェイスブックグループと、WG-GESUCHT, immowelt.deと  
いうサイトを利用していました。日本にいた時は詐欺のメールが来たり、スカイプで面接をしようと言われた  
きり連絡が返って来なかったりしましたが、ドイツでは直接会うことができる分、話が進みやすかったです。  
突然、「今日見にこれるか?」といった具合で連絡がくるので、大学が始まってからだと難しいなと思います。  
最終的にWGで部屋を貸してくれる人を見つけました。メールを送ってすぐにwhatsAppやってる? 30分  
後に会える?とトントン拍子で進み、次の日には契約完了し、その次の次の日には鍵をもらうような次第でした。  
内見の際に住民登録のためのサインはもらえるかと尋ねたところ、次の日には記入済みの用紙も用意してく  
ださってありがたかったです。調理器具一式とレンジ、オーブン、トースター、冷蔵庫とテレビ、プリンター  
が付いていて、降りてすぐのところにスーパーのあるとても良いところでした。大学までは20分くらいです。



## 02 ホテルについて

ケルンに着いてしばらくはユースホステルで暮らして  
いました。ケルンのユースホステルは非常に安く、  
ドミトリーのタイプで一泊15~20ユーロです。キッ  
チンが使える、洗濯機がところにより無料だっ  
たり、シーツもいつも綺麗だし、ずっと暮らしてしま  
うなと思いました。もともと家族と暮らしていたの  
で、いろんな人と話ができたり生活音がする環境は  
落ち着くのにもちょうど良かったです。盗難防止には  
日本から南京錠をいくつかとロック用のワイヤーを  
持って行ったのが役に立ちました。

### ホテルの総評と回線速度

宿のwifiはパスポイントが700Kbps A&Sが40Mbps スマートシティが20Mbps ヴェルテムフィンガが300Kbps ステー  
ションが50Mbpsでした。

女性におすすめするのなら男女が分かれていてキッチンのついたパスポイントです。ヴェルテムフィンガは無料で洗濯しほ  
うだいです。ステーションのwifiはとても速くてMacが使えるので、ステーションのwifiのおかげで家が見つかったとい  
っても過言ではありません。

## 03 SIM について

Sim カードに関する規制が厳しくなったと聞いていたので、日本でヨーロッパで 1 ヶ月使える Sim カードを購入してから来ました。空港ですぐにアクティベートでき、Mac の PC はフリーの Wifi に接続できないのでメールを送りたい時などに重宝しました。ドイツの通信会社は Vodafone O2 telecom の 3 社が有名なのですが、Vodafone が通信域のカバーが一番しっかりしていて速度も速いようなので Vodafone にしました。最後まで迷っていましたが、普通に使う分には格安 Sim の penney などが通信速度も価格も良かったと思います。場合によっては住民登録書などの提示が求められると聞いていましたが、パスポートの提示のみで買えました。



## 04 授業について

最初の週は「Kölner Ressourcen」という授業で、それぞれのチームの教授と一緒にテーマ自由の発表を行いました。私はラウスハイマー教授のチームで「成功する振る舞い」というテーマを扱いました。初日は教授に「3 メニューのコース料理を作れ」との手紙をもらい、いましたメンバーと企画してその日の夜にディナーを行いました。ディナーで教授から取引先の家での夕食の話を例に、振る舞いが他者に与える影響などについて聞きました。振る舞いが人の心を開く鍵であるならば、KISD ではどのように振舞ったらいいのか？という点をマナーという形でまとめて、間違っただマナーの例を面白くビデオの形でまとめて発表しました。



□ディナーの様子



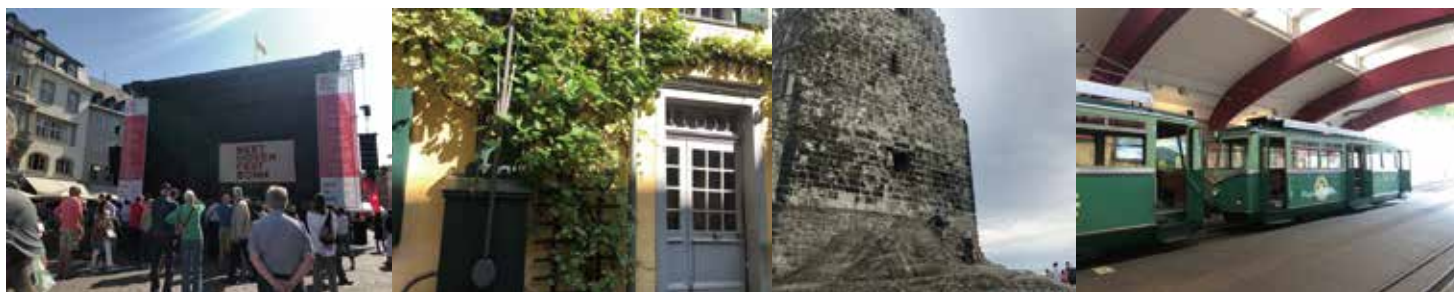
□間違っただマナーの例



□プレゼン

## 04 ベートヴェン音楽祭について

8/31~9/23 はボンでベートーヴェン音楽祭が開かれていました。ケルンからは電車で 20 分ほどで行くことができました。町中でコンサートが開かれており、常にどこからか音楽が聞こえてきました。夜には第九の大合唱を行なっていました。ベートーヴェンの家にも訪れました。使用されていた楽器や再現の音声、直筆の楽譜など見応えがありました。地下ではインタラクティブ型デジタルオペラの講演を行なっていて、かなり前衛的でした。すこし離れたところにあるケーニヒスウィンターにも訪れました。竜の丘伝説で有名な地とあってファンタジー的なものを想像していましたが、パノラマが見事なデートスポットといった雰囲気でした。



## 05 フランクフルトについて

ビジネス街と古い街並みが混然としていて、メリハリが刺激的でした。美術館も多くある土地です。Angewandte 美術館では半日ほど過ごしました。デザイン史で有名な製品の他にも、コーヒーメーカーやトースターといった製品を昔のものと現在のものを並べて展示していて、ヨーロッパの家電のデザインの変遷が見れて面白かったです。また、ちょうどゲーテの誕生日にゲーテの家に訪れました。家の作りや家具自体もとても豪勢で、趣向を凝らした手工業品がたくさんあり、生活感がほんのりと残っているのがたまりませんでした。特にキッチンには専用の井戸 (!) と鍍起銅器のケーキ型がたくさん置いてあり、必見です。



# October

》 Köln International School of Design

授業も本格的に始まりました。また、カフェの運営をする学生団体にも所属することになりました。  
オクトーバーフェストやドイツデザインウィークといったイベントも盛りだくさんでした。

□ DDW の屋外展示

## 01 KISDessentials

KISD では 5 年もの歳月をかけて留学生のイントロダクションにあたる授業の再編成を計画していたらしく、今年が最初の運用になるとのことでした。

KISD の中には機械工作、3D プリント、テキスタイル、スクリーンプリント、写真、木材、金属などの多くの工房があります。イントロダクションとして、2 週間のうちの 1 日または半日をかけてすべての工房でなんらかの作品を制作しました。

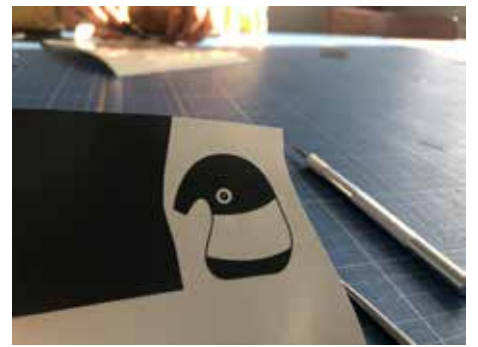
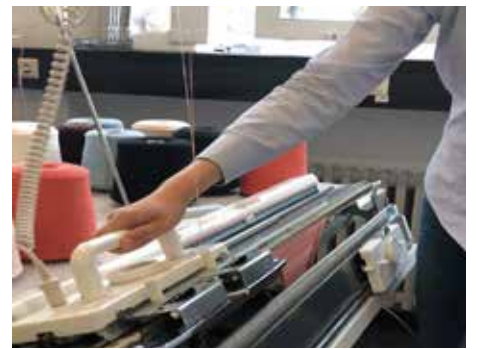
1 週目は、工具を用いた簡単な製品コピーを行ったり、Arduino を用いて動く橋を作ったり、木の椅子を作ったり、金属のフックを作ったりしました。レーザーカッターはちょうど壊れているらしく、近くに西千葉工作室のような施設がないことが改めて不便に感じました。橋は 1kg が規定の耐荷重だったのですが、5kg まで余裕で耐えた上に、全チームのなかで唯一きちんと橋の床面が持ち上がって動くものを作れたので楽しかったです。工房は放棄された材料がたくさん転がっていて出入りも気軽にできる点がとても好印象でした。



### 2 週目のスケジュール

		Monday, 8 <sup>th</sup> October	Tuesday, 9 <sup>th</sup> October	Wednesday, 10 <sup>th</sup> October	Thursday, 11 <sup>th</sup> October	Friday, 12 <sup>th</sup> October
<b>Group E</b>	Can Yildiran Haruna Eim Mathilde Nguyen Elena Seip Viktoria Sochor Tamara Bertran y Kaiser Mattis Baston Kevin Paterka	10-17 o'clock	9-13 o'clock	9-13 o'clock	9-13 o'clock	13-18 o'clock
		Blended Studies / Writing Lab (room 11)	Screen Printing (Basement, room 51)	Photo Studio (Fourth floor, room 404)	C-Lab (Fourth floor, room 409)	Food Lab (room 135)
14-18 o'clock  Textile Lab (Second floor, room 231)	14-18 o'clock  VR-Lab (Fourth floor, room 409)		14-18 o'clock  Equipment Service (Fourth floor, room 404)			

2週目は、スクリーンプリンティングやテキスタイル、写真、PC、VR、備品貸し出しなどの工房を回りました。テキスタイルではミシンの講習を受ける予定でしたが、サークル等で衣装を制作した経験があると話をしたところ、「じゃあ違うことやってみる？」とのことで織り機を使ったヘアバンドの制作をさせていただきました。その他の工房でも学生の経験を聞いてそれにレベルを合わせようとしてくれて、とても丁寧なガイダンスでした。最終日は 300 人分の料理を作り、打ち上げパーティを開きました。豆腐はビーガンにとっても人気なようで、今のところ KISD のパーティでは毎回出てきています。



## 02 On the Internet, nobody knows...

ガイダンスの後は、ミッドタームプロジェクトの lot に関する授業とドイツ語の授業と、TA としてスクリーンプリンティングを用いて展覧会を行う授業を受講しています。

lot に関する授業では、インターネットとものを繋げるということを経験的な実践を交えつつ、歴史や関連技術など基礎的なことを学びました。改めてインターネットの成り立ちや仕組みから lot を考えると、いままで割と雑な認識で考えていたんだなということに気づきました。DoS 攻撃などの過去の問題事例や批判事例なども多く紹介されました。この授業でも最終的には展示物を作ることを目標にしているため、現在はどうのようなコンセプトで制作を行うかの話し合いをしています。



## 03 Oktoberfest

建物の装飾や衣装など、伝統的で民族的なドイツの一面を多くみることができました。醸造所ごころにテント（5000 人収容）の内装が全く異なり、どのテントも仮設とは思えないほどの立派な造りをしていました。テントごとに対象とする年齢層もまったく異なり、それぞれ全く違った雰囲気を持っていました。

閉会の合図に空銃を撃つという行事があり見に行きました、何挺もの銃が一斉に射たれると遠くからでも耳が割れるような轟音がしました。火薬を詰めた後、カチカチと銃を叩いて火薬を均一にする仕草がエスプレッソを慣らす時とよく似ていました。また、おそらく州首相と思われる人からの挨拶もあり、バイエルンとしての伝統を非常に重視している様子が伺えました。

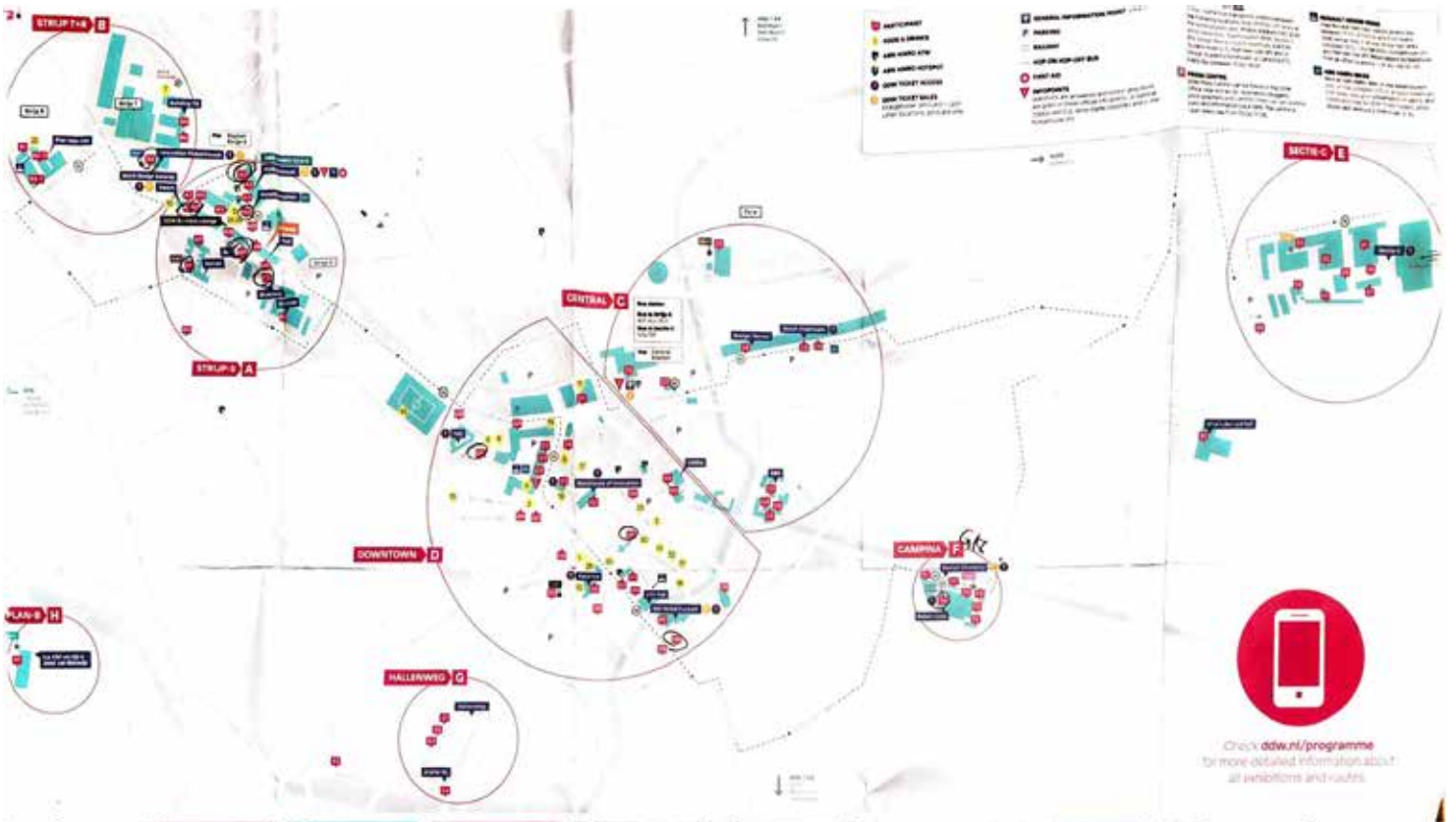
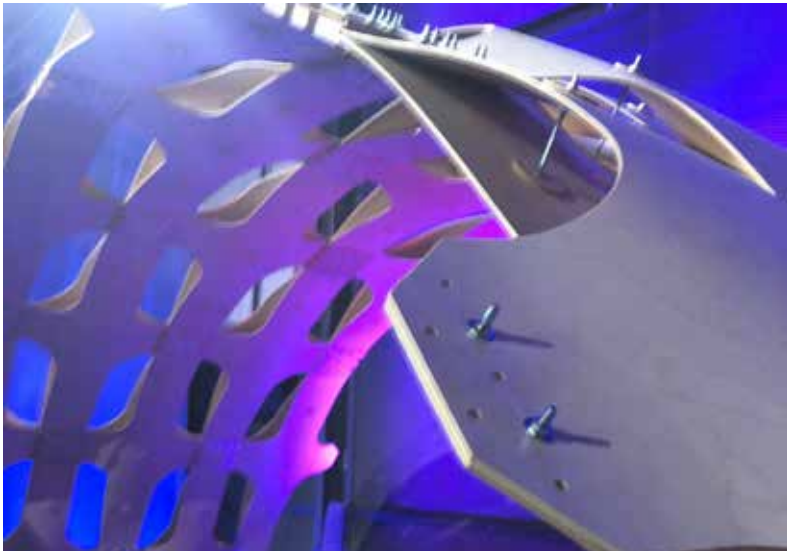


# 04 DDW

オランダのアイントホーフェンで開催されたドイツデザインウィークに行ってきました。展示が町全体を使って行われている上に会場がとても広く、とても1日では周りきれぬ規模ではありませんでした。

私は主にテクノロジーに関する展示と TU/e の卒業制作展を見ました。

液体 3D プリンターを利用してシリコンで制作された衣装や稼働機の卓上インターフェースや無音、無発光、無振動の通知システムや知育玩具、VR、AR と幅広い展示を行っていました。





## 05 ケルンの展覧会

ケルンでも Koelner design preis や Cologne museum night といった展示が行われました。

Koelner design preis ではプロダクトの展示は殆ど無く、インターフェース、パッケージ、映像、アプリケーション、インフォグラフィックスなどの展示が主でした。

Cologne museum night では KISD の校舎の一室を利用して展示を行っていましたが、仕切りと照明をうまく利用して普段と全く異なる空間に仕立てていて感心しました。環境問題を非常にエモーショナルに取り扱っていて、問題の視覚化のアプローチが面白かったです。体重から必要な牛肉量と消費される牧草地の面積を可視化する体重計が特に印象に残っています。





# November

》 Köln International School of Design

授業も大詰め、来週はプレゼンテーション+展示会です。  
街のあちこちでクリスマスマーケットが開かれ賑わっています。

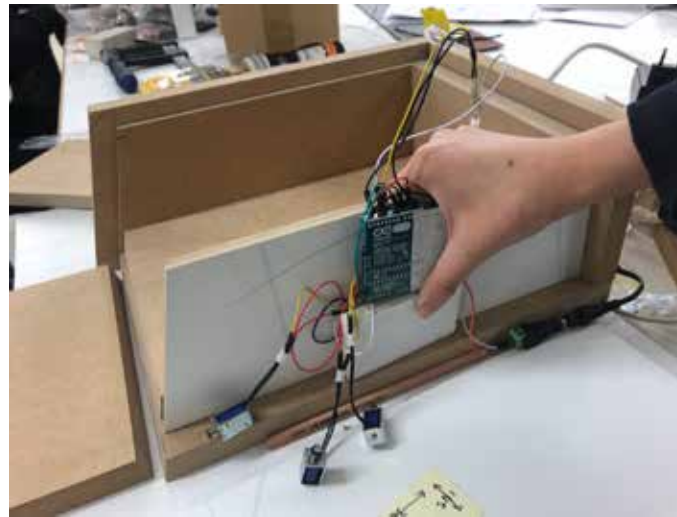
□ クリスマスマーケット

## 01 On the Internet, nobody knows...

ミッドタームのこの授業は今週の金曜日がついにプレゼンテーションです。マイクロコンピューターや通信の方法を教してもらい、実際に1からインターネットに接続した製品・アートを制作しようという授業です。

いつもはレーザーカッターで切ったMDFとスタイロフォーム中心の、手鋸などで仕上げる加工ばかりしていたのですが、今回は木材を切り出して作ることにしました。工房にフリーで使える材料がたくさん置いてあり、出入りも自由にでき、相談にも親切に乗ってもらえるのでとてもいい環境です。

ドイツで初めて電子機器を通販したのですが、品揃えもよく3日で到着と郵送速度も速かったです。



## 02 その他の授業

スクリーンプリンティングの授業も今週の金曜日が展示会です。社会的に問題に思っていることをポスターにして発信しようというテーマでそれぞれが作品を制作しています。

KISD のスクリーンプリンティングの設備はとてもしっかりしていて、暗室と4枚スクリーンをセットできるプリント台があるので、この授業でその設備を活用できてよかったと思います。

追加でとっているサービスデザインのワークショップのインタビューもよい返答がいただけたので上手く生かしていきたいと思います。



## 03 追加授業の取り方

KISD では学期の初めに授業登録する以外にも追加で授業を取ることができます。2 階の掲示板に授業の名簿リストが不定期に貼られる際に、下に空欄があった場合はそこにサインすることで応募できるため、できるかぎりこまめに見に行く必要があります。ソフトの使い方の授業や短いワークショップなどはここでの募集も多いです。

定員がすでに一杯でも最初のミーティングに行くと欠席者の繰り上げがあったりもするので、どうしても気になる場合はリストの下の欄外の位置に記名して行ってみることもできます。



## 04 ビザについて

ドイツの学生ビザはドイツ国内でしか取ることができないとのことで、ドイツに渡航した後でビザをとりました。ビザを発行してもらうためには住民票と閉鎖銀行の証明書が必要であり、住民票を得るためには賃貸の契約が必要だったため、すこし手間取りました。

必要なもの

- ・ 閉鎖銀行口座 (X-patrio というネット銀行ならどこからでも作れる)
- ・ 賃貸契約書
- ・ 住民票
- ・ 在学証明書
- ・ パスポートのスキャン (入国スタンプつき)
- ・ ビザの発行願
- ・ オフィスへの予約 + 56ユーロ + パスポートサイズの写真

ビザを発行してくれる担当の人はドイツ語しか喋れないためドイツ語がわかる人と一緒に行くべきと聞いて尻込みしていたのですが、実際行ってみたら大体ニュアンスはわかったので大丈夫でした。



## 05 日本食について

ドイツにくる際、もし日本食が恋しくなった時のためになにか持って行こうかと考えましたが、結論としてはドイツには大体のものが揃っている上に近所のスーパーで基本的なものは買うことができます。醤油や酢、ウスターソースや海苔は近くのスーパーで買えます。その他のものや生鮮食品は電車で40分くらいのところにあるデュッセルドルフに行けばだいたい売ってます。手土産に日本のお菓子を持っていくとしたら何がいいと思う？と聞いた際に「ポッキーとかコアラのマーチは割とどこの国でも人気だよ」とのアドバイスをもらいましたが、人気が出るというのはつまりビジネスチャンスなんだよな…ということを実感しました。この2つは本当にどこでも買えます。

KISDだけでなく、いくつかの美術館でのパーティでも醤油や豆腐といったものは普通に使われていました。こちらにはビーガンの人が多くいて、トルコ料理のファラフェルというひよこ豆のコロッケと並んで豆腐が人気ようです。



# December

》 Köln International School of Design

前期の授業のプレゼンも終わり、後期の授業が始まりました。  
クリスマスイベントも目白押しで、大学では2回もパーティが開かれました。

□ クリスマスマーケット

## 01 On the Internet, nobody knows...

この授業はインターネット、IoT の歴史と弊害を学び、1からインターネットに接続した作品の制作、発表を行うというものでした。既知のことは多くありましたが、プログラミングの技術を含め、今まで独学で学んでいただけのことが多く、そんな便利な方法があったのか！と驚くことが何度もありました。最終的にそれぞれが発表した作品も、一つの授業から生まれたものとは思えないほど幅広く、バックボーンの違いが垣間みえて興味深かったです。

私はこの授業で GPS と連動した引き出しを制作しました。家族の位置を計測し、家にいる人数や人によって開き方を変えるとといった機能を持っています。ハッキングされたときの安全性やその製品があることによってどのようなコミュニケーションの促進が期待できるかなど、より多方面の視点から製品を設計することができました。講評でも「シンプルながらコアのコンセプトが固まっていいていい」と好評でした。

他にもオフィスで働く人のメンタル管理をサポートする家具や「議論」をモニタメント化したアートなど面白い作品が多々作られていてよかったです。

基礎から学ぶことができつつ、実践的な製品の提案も行える良い授業でした。



## 02 Under pressure

同日に、TA として参加していたスクリーンプリンティングの授業のプレゼンテーションも行われました。

この授業は、バンクシーやシェパード・フェアリーのように、アートを通して意思を表明し、発信しようというものでした。

ドイツではストリートアートがとても盛んで、町中の壁、室外機、電車などありとあらゆるところで見ることができます。

環境問題、性、自然保護など、様々なテーマが扱われました。私は、ケルンも東京も、人口集中から住宅や交通に問題を抱えていることに注目してポスターを作りました。

なかでもとてもドイツらしいなと思ったのはポリ袋反対のポスターです。ドイツではポリ袋のことを「プラスチック」と呼んでなるべく使用しないようにしています。パン屋などで紙かポリか袋を選べるがありますが、ポリを選ぶと少し嫌がられます。リサイクルのシステムや回収ルールなど面白い点は他にもありますが、ポリ袋に対する強い反応はとても印象的です。



## 03 Innovation for the Public Sector

この授業は好きなターゲットを選んで調査、提案を行うという授業です。今は Mensa という日本でいうところの学食のような団体をターゲットに調査を行なっています。

なぜ Mensa をターゲットに選んだかということ、学生にとってかなり重要な施設であるにも関わらず満足度が低く、利用したがない人が多くいたからです。

近隣の Mensa の取り締まり役の方にインタビューを行い、Mensa の満足度の調査は埋まっている座席率を見ていること、メニューは決まったセットを売上の多いものを優先して繰り返していることがわかりました。また、学生にも調査を行い、多くの学生が昼食を持ち込んで利用していることがわかりました。

Mensa としても、年々利用者数が減っていることを重く見ており、改善については悩んでいるそうです。

最終的には理想論を並べるだけでなく利用実態に則した良い提案を送ることができたらと思います。

現在は予算の流れについて調査中です。



## 04 Experiments with Augmented Reality

後半の授業の AR が始まりました。

AR にはもともと興味があり、去年に一度チュートリアル程度はアプリのビルドを行ったことがあったのですが、新しく ARkit などのプラットフォームが公開されたことで、さらに便利になっているようです。

AR 技術自体はかなり前からあるものの、広く実用されているとはなかなか言えず、このまま埃をかぶってしまうのを見過ごさず、可能性を探求してみようというのがこの授業のコンセプトです。

たったの 3 週間で AR アプリの作成が可能なのか？という不安はありますが、頑張りたいです。

年末に旅行に行く予定なのでよいアイデアが浮かぶことを願っています。

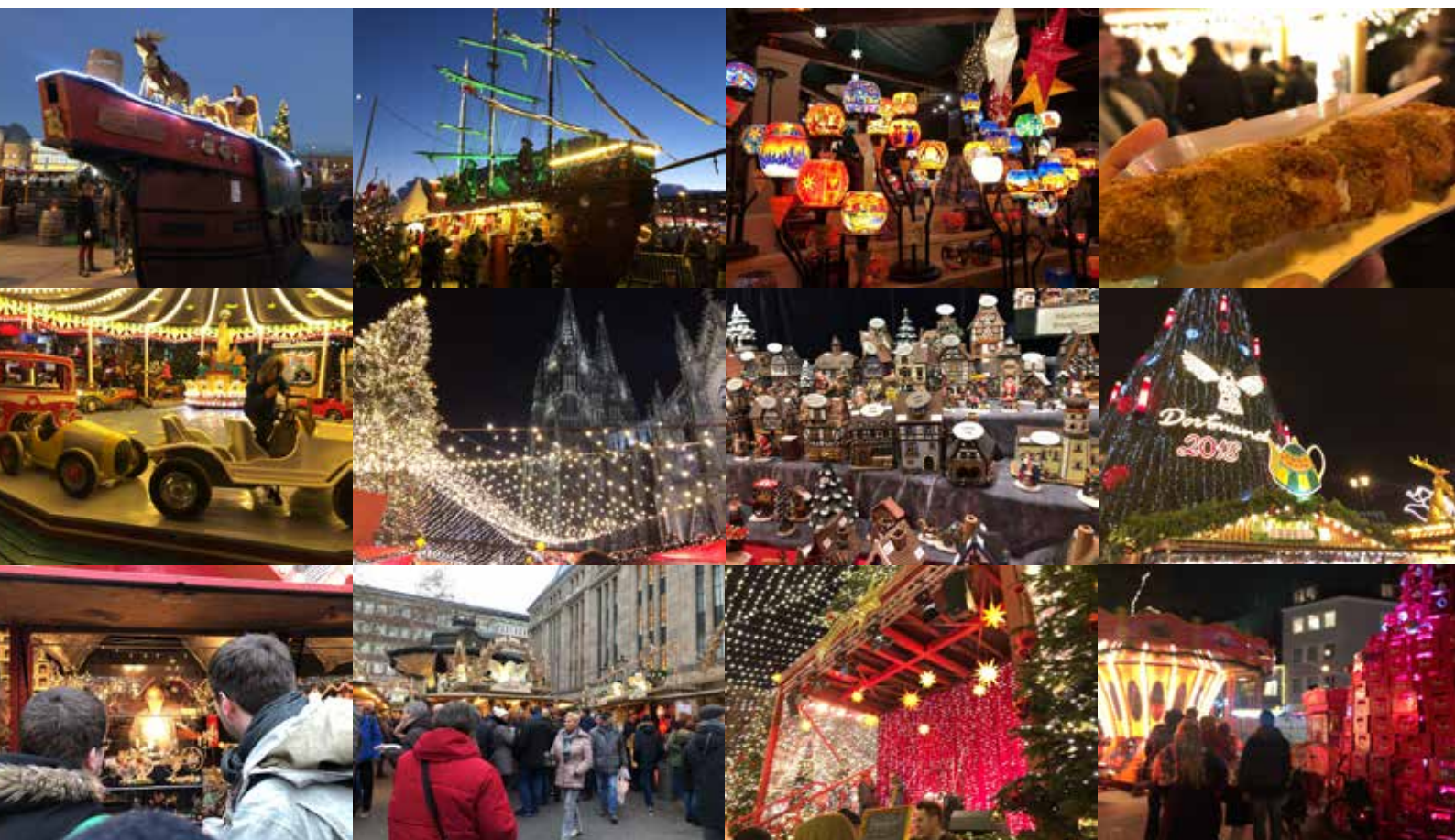
## 05 クリスマス

ドイツでは街中でクリスマスマーケットに出くわすことができます。ケルン、デュッセルドルフ、ドレスデン、ベルリン、ハノーファー、ブレーメンなど 30 個ほど見て回りました。

海の近くなら船に乗ったサンタや、手工業が盛んならドワーフの装飾などマーケットごとにテーマが違って見応えがあります。

11 月ごろから始まり、12 月の終わりまでやっているようです。

大学では大学全体でのパーティーや GuteStube (カフェ委員会) でのパーティーが開かれ、プレゼント交換などを楽しみました。



# January

》 Köln International School of Design

年も明け、授業もいよいよ大詰めになってきました。  
雪が多く寒さも厳しくなり、体調を崩す人も多いです。

□ ベルリンの壁

## 01 Experiments with Augmented Reality

年明けに、自分たちの作りたいアプリケーションについてのプレゼンテーションを行いました。

医療や教育などおのこの興味のある分野でそれぞれ作成することになりました。

私は、手話の翻訳アプリのデモを作成しています。動きを文字にして表示するというのはまさに AR の得意分野であるし、相手の顔を見ながらコミュニケーションも取れるので別のモニターなどに表示して翻訳するよりも良いと思ったからです。

昨年、手話通訳 AI などが開発されたようですが、一般に公開されているものでもないのになんとか自分で似た機能のものを作成できないか奮闘しています。一般公開されているハンドジェスチャー SDK をもらえないか申請をしましたが、返答がないのでまた別の方法を探しています。

デモを作るだけなら他にも方法はありますが、できればちゃんと AR のアプリケーションとして完成させたいです。



## 02 ドイツの気温について

ドイツは冬の寒さが厳しく、南にあるミュンヘンでさえ札幌よりも北に位置します。体感の寒さは風の吹き方や湿度によっても変わるので、気温の低さが過ごしにくさに直結するわけではない、と考えていたのですが、ケルンは冬でも雨が多く、雪が降ることはあまりないと聞いていたのですが、結構な頻度で降っています。うっかり外で2時間ほどじっとしていたらめっちゃくちゃひどい風邪を引いて長くこじらせました。

-6~+6 度くらいの気温と曇りと雪の日が続くので、ちょっと減入ります。授業中に一瞬晴れて、「太陽だ！」「太陽??？」と騒ぎになった時は笑いました。ただ、屋内は温水暖房が効いていて日本よりも過ごしやすいです。冬場は毎年マスクをつけていましたが、こちらはあまり乾燥するという感じもなく、こちらの人があまりマスクをつけないのも納得です。

服は日本から持ってきた冬服をちょっと着込めばなんとかなりますが、外に長くいるのはドイツに在住している人でも非推奨であるみたいです。

## 03 Berlin New Year

ベルリンのニューイヤーパーティーはとても盛大に行われると聞いて、年末年始は北ドイツに旅行に行きました。

ブランデンベルク門を華やかにライトアップしてライブを行っていて、文化遺産を大胆に使った演出に驚きました。ベルリンでは別の時期にライトフェスティバルというプロジェクトマッピングなどを用いたお祭りが開かれているので、夜の演出がうまいのかもしれません。

小さな子供なども0時にも関わらず親と一緒に外に出て、威力の強い花火を打ち上げていたのが、カルチャーショックでした。誰もが一步間違えば大惨事になりそうなもので自由に遊んでいて、綺麗で活気はあるけれど、安全面ではとても危険で、自由と制限について実地で体験したなという感じです。

ベルリンは壁やホロコースト記念碑、数々の美術館や博物館、個展など見るものが多く、1週間かけても周り尽くせない街です。街中に描かれたストリートアートも見応えがありました。

ポツダムはベルリンから片道40分ほどの近さで、ベルリンの1日チケットで行くことができるので、ポツダムのサンサーシ宮殿も見に行きました。陰気な王宮から逃れるための夏の別荘とのことで、太陽の意匠の金と青銅の青のコントラストが綺麗でした。

帰路はハンブルクとブレーメンとミュンスターに寄りました。

ハンブルクは運河の中に建つ赤煉瓦倉庫で有名な港町で、建物自体が古いものでありながら今もなおしっかりと利用されていて、古道具フェチにはたまらない街でした。入口のバネ式タラップや荷物の引き上げのための滑車など、物珍しいものも多く、建物を眺めるだけで楽しむことができます。ハンブルクの歴史がわかりやすいとのことで船の美術館にも行ったのですが、実際に使われていた農具や日用品、部屋や建物の再現、そして現在のハンブルクが行っている街のこれからのに関するアンケートや都市設計のコンセプト展示など非常に幅広い分野の展示が行われており、期待していた以上の見応えがありました。昔の道具は、電力などを用いずにどうやって楽に作業を行うのかというアイデアに溢れていて刺激になります。レーパーバーンという歓楽街にも寄りましたが、この区画だけ道が非常に汚く、自由を謳った広告があちこちに貼られており、雰囲気は違いました。





ブレーメンはレンガでできた入り組んだ通りに小さなお店が密集していて、探索が楽しい街でした。個人で経営しているような手作りの雑貨を扱っている店が多くあり、ウィンドウの展示がどの店舗でも凝っていました。

ミュンスターは住民の満足度が高いことで有名な大学街で、子供やカップルの多い静かで落ち着いた街でした。質の良さそうな食べ物、服、雑貨のお店がたくさんあり、自転車の利用がとても多く、とても早いスピードでスムーズに行き交っていました。駐車された自転車の数もとても多く、シェアサイクルがケルンよりも少なく感じたのが印象的でした。

